

学校法人 四国大学

大学改革ビジョン2017

2017 ▶ 2021年度



— 学生にとって魅力ある大学とはなにか —



SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

大学改革ビジョン2017

2017▶2021_{年度}

— 学生にとって魅力ある大学とはなにか —

学校法人四国大学は、2011年より5カ年にわたって「大学改革ビジョン2011」に取り組み、大学全体の学生数の増加や教育改革、就職率の向上、認定こども園への移行と園児確保などの成果を収めて計画期間を終了しました。

前計画の成果と経験を基盤にし、さらに深化・充実させるため、次期改革ビジョンである「大学改革ビジョン2017」を策定しました。今後5カ年で各取組を通じて「四国大学ブランド」を確立し、地域においてなくてはならない学園となることを目指します。

大学改革の目標

- ① 大学経営を安定させ持続的発展を図るための学生確保
- ② 新しい時代に合った教育内容・方法の改善と研究活動の活性化
- ③ 多様な学生ニーズに応える学習環境の提供
- ④ 学生の適性・能力に応じた就職支援の充実
- ⑤ 地域社会との共生及び国際化の推進

私たちは、「**学生にとって魅力ある大学**」の実現のために、
学生の日線に合った大学改革に取り組みます。

大学改革を推進する5分野

1. 大学の持続的発展を目指して

「地域になくてはならない大学」を目指し、本学の魅力、「四国大学らしさ」を広く社会に伝えるため、広報機能の改革を行い、「四国大学ブランド」の確立を図ります。

また、学生募集体制を見直し、新しい入試制度を構築し、全ての教職員が一丸となって学生募集を行う体制作りを進めます。

2. 教育・研究の強化と質保証

社会や地域のニーズを踏まえ、本学での学びが学生にとってより魅力あるものとなるよう、時代に合った学科・コースの新設・再編をはじめ、教育内容・方法の改善・充実、学科等の特色を明確化したカリキュラムの開発・実践及び研究活動の強化・推進などに取り組みます。

3. 学生生活と就職活動の支援・充実

学生満足度の向上のために、一人ひとりに向き合った総合的な支援を行い、学生生活の充実を図ります。また、大学での学びにより人生観や職業観を醸成し、卒業後の進路に繋がるよう、キャリア教育と就職活動支援の充実・強化を図ります。

4. 地域貢献活動とグローバル化の推進

これまで「地域とともに歩む大学」として整備してきた基盤の上に、地域社会及び産業界との一層の連携強化を図りつつ、新たな生涯学習プログラムの開発や高大連携事業の多様化促進、学内資源の有効活用などの取組を通じて、地域貢献活動に係る独自のグランドデザインを策定します。

また、附属認定こども園では、教育・保育課題に大学と連携して取り組み、子育て支援における地域社会のニーズに応えます。

このほか、新しい国際戦略プログラムを構築し、留学生への積極的な支援及び支援体制の強化をはじめ、海外との研究交流・人的交流などグローバル化を推進します。

5. 大学運営組織の機能強化と経営の安定化

社会のニーズの変化や学生の多様化により、大学に求められる機能は拡大しています。また、経営環境も今後一層厳しく変化していくことが予測されます。このような状況において、本学では教職協働を推進するとともに、大学運営組織の機能強化と経営の安定化に取り組みます。



四国大学のめざす教育改革

社会のグローバル化や少子化による人口減少など、予測困難な時代において、
大学教育に期待されるのは、これからの社会を担い新しい時代を切り拓いて
社会をリードする人材を育てることにあります。
四国大学では、このような社会からの期待に応えるため、
新しい時代にふさわしいカリキュラムを平成26年4月からスタートさせました。

1.人材養成像に 基づく カリキュラム

学部・学科の目指す人材養成像を
明確にして、そこに重点をおいた
カリキュラムを厳選し充実しました。

2.ゆとりある カリキュラムの構築

より豊かな学生生活を実現するための
ゆとりあるカリキュラム、
そして本学を志願する
高校生や社会からよく理解される
カリキュラム構築にしました。

3.キャリア教育の 促進

社会課題に対応できる資質を高め、
職業に就くためのキャリア教育を
充実しました。

4.「全人的自立」の 実現

建学の精神「全人的自立」の実現の
ため全学共通教育を充実しました。

四国大学スタンダード

四国大学では、教育と学生生活を通して
学生に確実に身に付けて欲しいものとして、
「**社会人基礎力**」「**自己教育力**」「**人間・社会関係力**」の
3つを掲げ、これらを四国大学スタンダードとして
教育内容の開発を行ってきました。
卒業時には3つの力及び日本語による自己表現力、
情報処理技術力を身に付けて社会へ出ていくことになります。

社会人基礎力

- ①社会人マナー
- ②基礎学習力
- ③情報活用力

自己教育力

- ①自己理解・省察力
- ②目標課題設定力
- ③向上・探究する力

人間・社会関係力

- ①コミュニケーション力
- ②対人親和力
- ③社会貢献力

大学改革を推進する5分野に関する主な取組

分 野	実施事項	実施内容
1. 大学の持続的発展を目指して	大学広報戦略室の設置	大学広報機能の充実強化、戦略的な広報施策の展開を図るため、平成29年度組織再編により、大学広報戦略室を設置しました。
	四国大学ブランドの構築	「四国大学の魅力」や「四国大学らしさ」を広く社会に伝えるため、「四国大学ブランド」の構築を図っています。
	大学ホームページのリニューアル	大学公式ホームページをリニューアル公開しました。
	指定競技スポーツの振興	本学が指定する6競技のスポーツ強化のため、優秀な人材確保に努めるとともに、選手の競技力向上に資する活動支援及び環境整備に取り組んでいます。
	SSF(四国スポーツフェスティバル)の開催	11月の大学祭に合わせて、スポーツ分野独自の高校生参加型イベント「SSF(四国スポーツフェスティバル)」を開催し、高校1・2年生に対し本学のスポーツ振興に対する取組や支援体制を紹介しました。
	日ノ上陸上競技練習場の整備	日ノ上運動場に投てき練習施設と全天候型90mのタータントラック4レーンを備えた「日ノ上陸上競技練習場」を整備しました。
	オープンキャンパスの開催	「見つけよう、きみの未来」をキャッチフレーズにオープンキャンパスを年間6回開催し、オープニングオリエンテーションをはじめ学科・専攻別説明会では、それぞれに工夫を凝らした説明・模擬授業等を実施しています。
	特別入試の拡大	平成30年度入試では、スポーツ分野特別入試の対象競技に男子ソフトテニスを追加するとともに、社会人、編入生を対象とした芸術分野特別入試を導入しました。また、平成31年度入試では、グローバル分野の導入と芸術分野に吹奏楽を追加しました。
2. 教育・研究の強化と質保証	新しい時代に対応した入試改革	新テストの開始準備のための情報収集を行うとともに、現行入試制度の改善に向けて、入試合格者に対する現行入学前教育の検証及び入学後追跡調査を実施しました。
	新しい時代に対応した学科・コースの新設・再編	現行の学科等・コースの在り方について総合的に検討し、改善案を取りまとめ、実行可能なものから準備を行いました。平成31年度から生活科学部生活科学科に「公認心理師コース」を開設するとともに、学科名称を「人間生活科学科」に変更し入学定員を50名に増員します。
	3ポリシーの再構築	各研究科、学部、学科・専攻の3ポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)についてガイドラインに沿った見直しを行い、一貫性を持たせて再構築しました。
	現行カリキュラムの検証、評価、改善	「教育改革プログラム2014」が平成29年度末で学年進行を終了することから、全学共通科目及び各学科専門科目の「カリキュラム検証のための点検指標」を作成し、現行カリキュラムの検証準備を行いました。
	新しい時代に合ったカリキュラム開発・実践	経営情報学部、生活科学部、全学共通教育等において、時代に合ったカリキュラム開発を行いました。生活科学部では、公認心理師の養成、スポーツ栄養、食の安全、消費者教育及び小学校英語プログラムについて準備を行い、平成30年度から教育プログラムを開始しています。
	カリキュラムマップの作成	全学科・専攻・コース毎にカリキュラムマップを作成し、教育内容の可視化を図りました。
	ナンバリングの導入、ルーブリックの活用	教育内容(カリキュラム)が学生にとって見やすく、分かりやすくなるよう、教育課程の体系性を明示する「ナンバリング」の導入及び、学ぶ内容と到達度を明示した「ルーブリック」を全学的に拡充し、平成30年度から本格実施しています。
	アクティブラーニングの拡大	アクティブラーニング施設やラーニングコモンズ等を積極的に活用し、全学教育、各学科等の専門教育においてアクティブラーニングの実施を拡大しました。
	教育評価システムの見直し	本学のGPA制度の点検・見直し及び教育活動の評価方法について検討を行い、各学部・学科の一層適切な成績評価の在り方及び有効活用について方向性が示されました。
	FD活動の充実による教育改善	教員の資質向上及び教育の充実・発展を図るため、平成29年度にはFD研修会を3回開催するとともに、今後のFD活動の在り方について調査研究を行い、新たなFD実施計画を策定しました。
	大学院教育の充実	教育改革推進委員会大学院部会において、4研究科毎に大学院教育の充実に向けて、カリキュラムを点検・見直し、研究指導体制の整備等について検討のうえ実施しました。看護学研究科にあっては、平成30年度から新たに助産学分野を開設し、大学院でも助産師養成をはじめました。
特色ある研究活動推進	学内の特色ある個人的・組織的研究に対して学術研究助成を行い、積極的な推進を図りました。	

分野	実施事項	実施内容
2. 教育・研究の強化と質保証	受託事業、受託研究・共同研究の推進	学外ニーズと大学シーズのマッチングを積極的に支援するため、本学教員の「対応可能なテーマ」等を「四国大学研究・産学連携シーズ集」としてまとめ、平成30年度から本学のホームページ掲載及び冊子にて公開しています。
	科学研究費補助金の申請率・採択率の向上	平成30年度の科学研究費補助金の申請において、大学・短期大学部全体の申請率は79%、採択率は15.2%になりました。
	四国大学研究ブランディングの確立	平成29年度、文部科学省に採択された「四国大学研究ブランディング事業」について、藍に関する研究を中心として「SUBARU事業推進本部」を発足させ事業を開始しました。
	図書館の複合検索機能の拡充	図書館利用者の検索行動に合わせた操作フォローで、必要な情報へのアクセスを容易にするため、画面プロトタイプを作成し、入口である検索用画面デザインを変更のうえ、新図書館ホームページを立ち上げました。
3. 学生生活と就職活動の支援・充実	学生満足度向上方策の検討	平成29年度IR調査による本学学生満足度の評価・検証を行い、全学の学科・専攻毎に学生満足度向上に向けた対応策を取りまとめました。
	新しいチューター制度の検討	チューター制度改善検討WGを設置し、現行のチューター制度を検証のうえ、学生のニーズに合った新しいチューター制度の構築に向けた具体的な取組事項を決定し、「チューターによる指導のてびき書」を一部改定しました。
	合理的配慮ガイドラインの策定	障がいのある学生に対する修学上の配慮の提供に関するガイドラインを策定するとともに、合理的配慮ガイドブックを作成し全教職員に配付しました。
	アクセシビリティルームの開設	合理的配慮の提供に関する業務を行う施設として「アクセシビリティルーム」を開設し、専任の障がい学生コーディネーターが常駐し、合理的配慮に関する相談を受け付ける体制をとっています。
	学生支援GP制度の検証・見直し	学生委員会において過去5年間の取組実績と効果を検証し、更なる充実方策を検討しました。継続プロジェクトにあつては、従来の活動内容に加え新たな自治体や企業等との連携が行われました。
	学生のクラブ活動参加率の向上	学生のクラブ活動参加率の向上方策を検討し、環境整備を図り、短期大学部は平成30年度の目標入部率35%を達成でき、大学は過半数が入部している状況になりました。
	スポーツ・芸術分野特別入試入学者の支援充実方策の検討	スポーツ・芸術分野特別入試入学者の支援を充実する方策を検討し、その結果を取りまとめました。
	学生の経済的支援の充実	本学の奨学金制度について見直しを行い、平成31年度募集からグローバル分野特別奨学金の新設、芸術分野特別奨学金に吹奏楽を追加することにしました。
	キャリア教育の充実	中国・四国地域人材育成連携協議会への参加による広域インターンシップ、合宿授業、フォーラムを通じてキャリア教育の充実に努めました。また、本学と徳島大学、経済団体・県等の関係機関が協働で設置した「徳島県産官学人材育成連携会議」で、徳島県の観光資源の発掘とその活用について検討しました。
	就職支援体制の充実強化	就職・キャリア支援推進委員会を開催し、学部・学科等教員とキャリアセンター職員の連携による効果的な支援体制を検討しました。また、就職支援専門職員の養成に向けて、養成計画案を検討しました。
4. 地域貢献活動とグローバル化の推進	COC事業の推進	地域教育・連携センター及び県南部、西部のSSOを活動拠点に、地域志向型教育の実施、地域に貢献できる人材育成に取り組んでいます。また、新たに勝浦地区SSOを開設し活動の拡大を図りました。
	地域教育の体系化	平成29年度から全学共通科目として「地域未来探求」及び「地域創生入門」を、また教育課程の自由科目として「地域貢献・ボランティア活動I」「地域貢献・ボランティア活動II」及び「地域企業等研究活動」を開設しています。
	地域貢献・ボランティア活動等の評価・サポート	地域貢献活動やボランティア活動の学内への更なる周知、SUDachi CARD登録の促進や学外広報に取り組み、平成29年度には年間60時間達成者28人、内年間120時間達成者5人となり、成果を挙げました。
	新あわ学の構築	本学教職員の執筆による「大学的徳島ガイド」を刊行するとともに、第1回「あわ検定」を実施し「新あわ学」の構築に取り組みました。
	COC+事業の推進	県内の高等教育機関と県が連携して、雇用創出・若者定着のためのプログラムを実施しており、徳島で「新しく仕事を創りだすリーダー人材の育成」を目的に創業支援事業を行っています。

分野	実施事項	実施内容
4. 地域貢献活動とグローバル化の推進	新しい生涯学習プログラムの開発	生涯学習・公開講座に関するアンケートを実施し、その結果を平成30年度オープンカレッジ公開講座に反映しました。
	職業実践力育成プログラムの開設	社会人を対象に、文部科学省BP認定履修証明プログラムの認定を受けた、大学院経営情報学研究所における「税務・会計プログラム」を実施するとともに、文学部国際文化学科における「実践的小学校英語指導者育成プログラム」の募集を開始しました。
	高大連携の推進	高校との教育連携協定の締結を推進し、平成29年度には協定校が21校となりました。また、高大連携協定に基づく「わくわくイングリッシュ・セミナー」には県内8校の高校生が参加しました。
	高大連携事業の多様化促進	平成29年度には高大連携に係る高校のニーズ調査を行い、高校側との組織的な取組体制の確立について検討しました。また、県外高校との連携方策、芸術館の活用方法について、検討結果を取りまとめました。
	認定こども園の認知度向上のための取組	認定こども園として2年目を迎えた平成29年度には、園の運営の安定化と認知度の向上を図るため、勤務体制の整備や教育・保育機能の充実に向けた取組を行いました。
	認定こども園の大学と連携した教育・保育課題への取組	大学の関係学部・学科との連携カリキュラム等の整備を進めました。また、子育て支援の充実方策として、平成30年度から一時預かり(一般型)を実施しています。
	DDP制度の開始に向けた準備	中国湖南省湘潭大学商学院と四国大学経営情報学部との間のダブルディグリーに関する協定書・覚書の調印を行いました。また、DDP制度の開始に向けて、本学学生の留学用カリキュラム及び受入れ留学生用カリキュラムの検討等必要な準備を行い、平成30年度入学生から中国語特設講座など留学生用カリキュラムを実施しています。
	外国人留学生の積極的受入れ	短期大学部外国人留学生3年コースの受入れ体制の整備を行い、平成29年度からビジネス・コミュニケーション科と介護福祉専攻に正規留学生を受入れていました。平成31年度からは短期大学部の全学科等及び経営情報学部を受入れを拡大します。
	外国人留学生に対する効果的な教育プログラムの提供	正規課程における外国人留学生の受入れに向けて、各学部学科等において新しい教育プログラム等の検討を行うとともに、日本語教育を中心とした外国人留学生科目等を検証し、充実方策について検討しました。
	外国人留学生の修学・就職支援の充実	新たに策定した「外国人留学生就職支援実施要項」及び「就職活動スケジュール」に基づき、就職説明会、進路希望調査の実施、学外の各種セミナーへの希望学生の見学参加を行いました。学科においては、チューター、主任を中心に留学生の学習支援体制の充実に取り組んでいます。
	「トビタテ!留学JAPAN」等を支援	「トビタテ!留学JAPAN」第7期地域人材コースの合格者は4名で、全国私立大学で第11位となりました。
	海外留学を希望する学生への積極支援と外国人留学生の受入れ	平成29年度には、サギノバレー州立大学(アメリカ合衆国)に長期留学1名、湘潭大学(中国)に長期留学1名、銘伝大学(台湾)に長期留学3名、ウルバーハンプトン大学(英国)に短期留学4名をそれぞれ派遣しました。また、銘伝大学から1名、湘潭大学から7名、サギノバレー州立大学から5名を受入れました。
	国外の協定大学の拡充	国外の協定大学の拡充に向けた調査・検討を行っています。
国際交流支援体制の強化	国際交流関係業務の増大に対応するための体制強化と外国人留学生を積極的に支援するための人材養成を行っています。	
5. 大学運営組織の機能強化と経営の安定化	教職協働での学生支援	教職協働での障がいのある学生等に対する支援ガイドラインを作成しました。
	本学情報システムの検証・改善	新情報システム検討PTを設置し、各種情報コンテンツの共有・活用の促進に向けて、情報システムの改善策を検討しています。
	教職員の資質能力の向上	FD・SD研修会を開催し、教職員の資質能力の向上に取り組んでいます。
	経営安定化に資する財源確保	「外部資金獲得推進部会」における検討結果を基に国及び団体など学外の各種助成金や受託研究・受託事業収入など外部資金の獲得による財源確保に努めています。
	実効性のある予算管理システムの構築	健全な財政基盤の確立と安定化に向けて、予算管理システムの見直しを行っています。
	長期施設メンテナンス計画の策定	長期的視点に立った校舎メンテナンスのための「長期施設メンテナンス計画」の策定に向けて検討のうえ、計画の立案を終了しました。
	防災機能の強化	防災インフラの整備、大学BCPの検討等防災対策の充実に取り組んでいます。

1st Stage

2nd Stage

GOAL!!

2021

2020

2019

2018

2017

START!!



本学の使命(ミッション)は、変化する社会に対応・貢献できる人間力・自立力に富んだ人材を養成することにあります。そのためには、建学の精神である「全人的自立」に基づく教育及びその基盤となる研究を充実させ、本学の特色を明確にした教育指導、学生指導及び就職指導を着実にを行い、有為な人材として社会に送り込むことが求められます。

「大学改革ビジョン2017」は「大学改革ビジョン2011」に引き続き、これらの使命を実現するため、2017年から5か年にわたり本学ならではの魅力や特色を最大限に発揮し、学園の全組織を挙げて取り組む計画として策定されました。

本学では、多様化する地域社会のニーズに的確に応え、学生にとって魅力ある大学実現のため、教職員が一丸となって改革の確かな歩みを進めてまいります。

皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

四国大学・四国大学短期大学部 学長 松重 和美
学校法人 四国大学 理事長 佐藤 一郎

大学改革ビジョン2017

<http://www2.shikoku-u.ac.jp/jimu/s-kikaku/kaikaku2017/index.html>



〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川
TEL 088-665-1300 FAX 088-665-8037
<https://www.shikoku-u.ac.jp>



表紙モデル: 四国大学・四国大学短期大学部学生

2018年9月発行